

2017年3月24日

各 位



薬剤部／薬品情報室（D I 室）

D I ・ BOX # 0 9 4 4

## 『プレセデックス静注液200 $\mu$ g「ファイザー」』 の販売名変更について

$\alpha_2$ 作動性鎮静剤『プレセデックス静注液200 $\mu$ g「ホスピーラ」』（ホスピーラ・ジャパン）は、販売会社がファイザーに移管されたことに伴い、『プレセデックス静注液200 $\mu$ g「ファイザー」』に名称変更となりました。なお、変更は名称のみであり、適応症、用法・用量に変更はありません。

**平成29年3月25日（土）より、オーダ名を『プレセデックス静注液200 $\mu$ g「ファイザー」』へ変更します。払い出しは、旧名称品の薬剤部の在庫がなくなり次第、開始となりますので注意して下さい。**

	新名称	旧名称
オーダ名	プレセデックス静注液200 $\mu$ g 「ファイザー」	プレセデックス静注液200 $\mu$ g 「ホスピーラ」
成分名	デクスメデトミジン塩酸塩	
規格	200 $\mu$ g/2mL/バイアル	200 $\mu$ g/2mL/バイアル
適応症 用法/用量	・集中治療における人工呼吸中及び離脱後の鎮静： [成人] 6 $\mu$ g/kg/時の投与速度で10分間静脈内へ持続注入し（初期負荷投与）、続いて患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、維持量として0.2~0.7 $\mu$ g/kg/時の範囲で持続注入する（維持投与）。また、維持投与から開始することもできる。患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。 ・局所麻酔下における非挿管での手術及び処置時の鎮静： [成人] 6 $\mu$ g/kg/時の投与速度で10分間静脈内へ持続注入し（初期負荷投与）、続いて患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、維持量として0.2~0.7 $\mu$ g/kg/時の範囲で持続注入する（維持投与）。患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。	
外観		
区分	注射 平成29年3月25日（土）より オーダ名変更	注射 薬剤部の在庫がなくなり次第、 当院取り扱い中止

\*詳細・不明な点につきましては医薬品情報室（3194）までお問い合わせください。

\*「DI・BOX」は電子カルテ（EGMAIN）の掲示板およびイントラネットで参照・検索できます。